

令和4年度

守山商工会議所ががんばる事業所応援補助金交付要綱

(通則)

第1条 守山商工会議所ががんばる事業所応援補助金（以下「補助金」という。）の交付については、滋賀県補助金等交付規則（昭和48年滋賀県規則第9号。以下「規則」という。）を準用するほか、この要綱の定めるところによる。

2 補助金の事務局は、守山商工会議所に置く。

(趣旨)

第2条 がんばる事業所応援補助金は、新型コロナウイルス感染症（新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令（令和2年政令第11号）第1条に規定する指定感染症とする。）の拡大により影響を受けた守山市内中小企業等による感染症収束後も見据えた前向きな取組に必要な経費に対し、予算の範囲内において補助金を交付する。

(補助対象者)

第3条 補助金の補助対象者は、別表1に掲げる者とする。

(補助事業)

第4条 補助金の交付対象となる事業（以下「補助事業」という。）は、別表2のとおりとする。

(補助対象経費、補助率および補助金額)

第5条 補助事業の補助対象経費、補助率および補助金額は、別表3のとおりとする。

(補助対象期間)

第6条 補助対象期間は、令和4年6月15日から令和5年1月31日までに実施する事業とする。

(補助金の交付申請)

第7条 補助金の交付を受けようとする者は、交付申請書（様式第1号）に同様式で定める書類を添えて、別に定める期日までに守山商工会議所事務局に提出しなければならない。

2 前項の補助金の交付の申請をするにあたっては、当該補助金に係る消費税および地方消費税に係る仕入控除税額（補助対象経費に含まれる消費税および地方消費税相当額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）の規定により仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額および当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）の規定による地方消費税の税率を乗じて得た金額の合計額に補助率を乗じて得た金額をいう。以下「消費税等仕入控除税額」という。）を減額して交付申請しなければならない。ただし、申請時において消費税等仕入控除税額が明らかでないものについては、この限りでない。

(交付の決定)

第8条 守山商工会議所は、前条に規定する交付申請書の提出があったときは、当該申請書の内容を審査し、補助事業として適当と認めるときは、第5条に規定する補助対象経費のうち、必要かつ適当と認める経費について、予算の範囲内において、規則第4条に規定する補助金の交付の決定を、申請受付終了日から30日以内に行う。

(申請の取り下げ)

第9条 補助金交付の決定を受けた者（以下「補助事業者」という。）は、交付決定の内容またはこれに付された条件に不服があり補助金の交付の申請を取り下げようとするときは、交付決定通知を受けた日から10日以内に、その旨を記載した書面を守山商工会議所に提出しなければならない。

(補助事業の変更等)

第10条 補助事業者は、次の各号のいずれかに該当するときは、第1号においては変更承認申請書（様式第2号）、第2号においては廃止（中止）承認申請書（様式第3号）をあらかじめ守山商工会議所に提出し、その承認を受けなければならない。

(1) 補助事業の内容を変更しようとするとき。ただし、補助事業の目的および効果に影響を及ぼさない程度の軽易な変更をしようとする場合を除く。

(2) 補助事業を廃止または中止しようとするとき。

2 守山商工会議所は、前項の変更等の承認にあたっては、申請を受け付けた日から30日以内に行うものとし、必要に応じ条件を付し、または申請内容を変更して承認することができる。

(補助事業遅延等の報告)

第11条 補助事業者は、補助事業が予定の期間内に完了することができないと見込まれるとき、または補助事業の遂行が困難になったときは、速やかに補助事業遅延等報告書（様式第4号）を守山商工会議所に提出し、その指示を受けなければならない。

(実績報告)

第12条 補助事業者は、補助事業が完了したときは、その日から30日を経過した日、または令和5年2月10日のいずれか早い日までに、実績報告書（様式第5号）を守山商工会議所に提出しなければならない。

2 補助事業者は、前項の実績報告を行うにあたって、補助金に係る消費税等仕入控除税額が明らかな場合には、当該消費税等仕入控除税額を減額して報告しなければならない。

(検査等)

第13条 守山商工会議所は、補助事業の適正な執行を図るため必要があると認めるときは、補助事業者に対して報告または必要書類の提出を求め、または帳簿、書類その他物件等を検査することができる。

(補助金の確定)

第 14 条 守山商工会議所は、第 12 条の規定による実績報告を受けた日から、30 日以内に規則第 13 条に規定する補助金の額の確定を行う。

(補助金の交付)

第 15 条 守山商工会議所は、前条の規定により補助金の額を確定したときは、すみやかに補助金の交付を行う。

(補助金に係る経理)

第 16 条 補助事業者は、補助金に係る経理についてその収支の事実を明確にした証拠書類を整理し、かつ、これらの書類を補助事業が完了した日の属する会計年度の終了後 5 年間保存しなければならない。

(補助事業の公表)

第 17 条 守山商工会議所は、必要と認めるときは、補助事業者の名称、代表者名、補助事業の内容等について公表することができる。

(その他)

第 18 条 規則およびこの要綱に定めるもののほか、補助金の交付等に必要な事項については、守山商工会議所が別に定める。

付 則

この要綱は、令和 4 年 6 月 15 日から施行する。

別表 1 補助対象者

下記の条件を満たしている者

- ① 令和4年6月15日以前に開業しており、守山市内に事務所または事業所を有し、次に該当する者としてします。

中小企業等経営強化法（平成11年法律第18号。以下「法」という。）
第2条第1項に規定する中小企業者で、守山市内に事務所を有するもの
ただし、次のいずれかに該当する者は除く。

- ・発行済株式の総数または出資価格に総額の2分の1以上を同一の大企業が所有している中小企業者
- ・発行済株式の総数または出資価格の総額の3分の2以上を大企業が所有している中小企業者
- ・大企業の役員または職員を兼ねている者が役員総数の2分の1以上を中小企業者

※暴力団、宗教法人、政治団体、風営法上の性風俗関連として届出義務のある者、公共法人、事業を営まない法人格のある自治会等は補助対象事業者に該当しない。

参考：中小企業者の要件

業種	中小企業者 (下記のいずれかを満たすこと)	
	資本金の額 または出資の総額	常時使用する従業員
①製造業・建設業・運輸業その他の業種（②～④を除く）	3億円以下	300人以下
②卸売業	1億円以下	100人以下
③サービス業	5,000万円以下	100人以下
④小売業	5,000万円以下	50人以下

※1 資本金は、資本の額または出資の総額をいう。

※2 常勤従業員は、中小企業基本法上の「常時使用する従業員」をいい、労働基準法第20条の規定に基づく「予め解雇の予告を必要とする者」と解される。これには、日々雇い入れられる者、2か月以内の期間を定めて使用される者、季節的業務に4か月以内の期間を定めて使用される者、試の使用期間中の者は含まれない。

※3 資本金および従業員数がともに上表の数字を超える場合、大企業に該当する。

〈従業員数について〉

本事業では、以下の方は「常時使用する従業員数」に含めないものとします。

(a) 会社役員（ただし、従業員との兼務役員は「常時使用する従業員」に含む。）

(b) 個人事業主本人（なお、専従者（家族従業員）は「常時使用する従業員」に含む。）

(c) 以下のいずれかの条件に該当する、パート労働者等

○日々雇い入れられる者、2か月以内の期間を定めて雇用される者、

または、季節的業務に4か月以内の期間を定めて雇用される者

（ただし、所定の期間を超えて引き続き雇用されている者は「常時使用する従業員」に含む。）

○所定労働時間が同一の事業所に雇用される「通常の従業員※」の所定労働時間に比べて短い者

※「通常の従業員」について

本事業における通常の従業員とは、社会通念に従い、事業所において通常の従業員と判断される従業員とします。労働契約の期間の定めがない、長期雇用を前提とした待遇を受ける賃金体系である等、雇用形態、賃金体系などを総合的に勘案して判断することになります。

例えば、事業所にいわゆる正規型の従業員がいない場合、フルタイムの基幹的な働き方をしている従業員がいれば、その従業員が通常の従業員となり、その従業員より所定労働時間が短い従業員（1日または1週間の労働時間および1か月の所定労働日数が、通常の従業員の4分の3以下である）パートタイム労働者*とします。

*「パートタイム労働者」に該当するのは、「1日の労働時間および1か月の所定労働日数が4分の3以下」か、「1週間の労働時間および1か月の所定労働日数が4分の3以下」の場合に限ります。

② 令和3年度「がんばる事業所応援補助金」に採択されていない者

③ 守山商工会議所が定めるセミナーの受講等を行い、新たな知識習得、啓発に努めた者

別表 2 補助事業

今後の事業活動に資する以下に掲げる事業。 (1) (2) の複数事業の組み合わせも可。 (1) 販売促進応援事業 (2) 感染防止対策事業
--

別表 3 補助対象経費、補助率および補助金額

1 補助対象経費

補助対象経費	内 容
事業費	謝金、旅費、広告宣伝費、通訳・翻訳料、通信運搬費、資料購入費、備品購入費、試作費、受講料、借損料、出展料、デジタル関連費、委託料、対面での感染症対策用資機材等

※ 1 補助対象経費は、補助事業で必要とされるものに限る。

※ 2 補助対象経費は、消費税および地方消費税を除いた額とする。

※ 3 補助金交付額は、千円未満を切り捨てる。

2 補助率

10/10

3 補助金額

上限額	下限額
10万円	3万円